



Title	取り立て否定表現「Vはしない」のモダリティ用法 : 主題の「は」との関わり
Author(s)	山倉, 佐恵子
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2025, 2024, p. 87-94
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/102482">https://doi.org/10.18910/102482</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 取り立て否定表現「Vはしない」のモダリティ用法： 主題の「は」との関わり

山倉佐恵子

### 1.はじめに

否定表現「動詞＋は＋し＋ない」（以下「Vはしない」）、は「逃げはしない」「できはしない」などの形で用いられ、取り立て否定として「逃げない」「できない」などとの意味の違いが述べられてきた。長年、「Vはしない」は助詞「は」の対比の働き方が注目され、意味や用法の説明が行われている。しかし今回は「Vはしない」に、一般的な性質などを述べることができる主題提示の「は」の機能も関わっているのではないかと考えた。その理由が「否定の強調」（野田 1995:165）とされる次のような用法の存在である。

(1) 局には通話回数の記録が残るだけで、話の内容なんかわかりはしない。（野田 1995:165）

(2) わたしは決して前川正を忘れてはいない。（同上）

このような「Vはしない」は、否定を強める効果があるとされる。こうした用例は、近年も観察されている。例えば次の用例などは特に！（エクスクラメーションマーク）などと共に用いられ、語気の強さを観察することができる。

(3) そんなことを承知するはずないだろう

それに禰豆子は物じゃない!! 自分の思いも意志もあるんだ

お前の妹になんてなりはしない (2017年)（「鬼滅の刃」第5巻38話）

(4) わちきは… 命を乞いはせぬ (2019年)（「ONE PIECE」第93巻933話）

この「Vはしない」と語気の強さの関係を分析する際に、注目したいのがモダリティという意味機能との関わりである。モダリティとは、話者の主体的な態度（益岡 1987:30）などの事象のありようを表すカテゴリーである。話者の主体的な態度とは、近年の「Vはしない」に関連する形式「やしない」、愛知県方言「せん」、宇和島方言「すらへん」の用法の分析において観察されている概念でもある。これらは話者の主観的な判断に関わる意味をもつことが指摘されている。

(5) 客なんて来やしないよ。（竹内 2014:142）

(6) 雨がふれせん。（丹羽 2002:15）

(7) 先生雨降るゆうたけど降らへんでなあ。（工藤 1992:132）

「やしない」は「Vはしない」が単一形態素化した形であり、「せん」と「すらへん」は方言として用いられた形式である。「やしない」では確信的全否定を示すこと、「せん」「すらへん」では否定が話者の主観的な判断だと示すことを機能としている。これらの話者の主観性に関わる性質を「Vはしない」も同様に持っていると考え。そしてそれは「Vはしない」における助詞「は」の機能が、「何かを話題にして、それについて何かを述べようとしたもの」（北原 1984:80）であり、その性質によって一般的なものと決まりや汎称的命題(generic proposition)(寺村 1991:55,54)などを表すことができることと関連する。「Vはしない」のVを一般的、概念的にとらえることで、Vについての話者の判断を表すことを可能にしているのである。これは行為を名詞化してモダリティとしての意味を表す「ことがない」などと同様のメカニズムである。そして「Vはしない」の判断とは「V」が「ない」という極めて高い否定であることから、「事態不成立の可能性が高い（という話者の判断）」だと結論づける。

本論の目的は以上のように「Vはしない」の助詞「は」が行為の概念化の機能を持ち、「Vはしない」がモダリティとして「事態不成立の可能性の高さ」を示すと明らかにすることである。

### 2.先行研究

#### 2.1 助詞「は」の機能

まず「Vはしない」に含まれる取り立て助詞「は」の機能について概観していきたい。助詞「は」の機能は大きく分けて「主題」と「対比」の2つがある。一つ目の主題の「は」は、文の主題を提示する形式であり、次のように説明される。

(8) 「何かを話題にして、それについて何かを述べようとしたもの」（北原 1984:80）

例えば次のような文では、「は」により「山口さん」や「象」が主題として取り上げられ、それについての説明がほどこされていると解釈できる。

(9) 山口さんはお医者さんです。(寺村 1991:42)

(10) 象は大きい。

このように主題の「は」は事柄を主題として扱い説明の対象とすることができる。主題の「は」が用いられる例として、寺村(1991)は汎称的命題(*generic proposition*)や、一般的なものごとの決まりなどを取り上げている。汎称的命題(*generic proposition*)とは「一般にある集合全体について、その特質を述べる文」であり、一般的なものごとの決まりもその一部であるとされる。そのグループに属する例を次に紹介する。

(11) 空はあおい。(寺村 1991:61)

(12) 容貌の程度も平均的で、風采も上がらない四十半ばの男は、群衆の中ではただの雑物にすぎない。(寺村 1991:55)

(10)や(11)の例は「空というものは、青くみえるものである」(寺村 1991:61)。「四十半ばの男というものは、雑物にすぎないものである」などと主題についての一般的な性質を述べている。以上が「は」の機能の一つ目である。

次に対比の「は」について述べていきたい。対比の「は」とは、「文中のある要素をとくに際立たせ、ある対比的効果を生じさせる働き」(寺村 1991:41)をもつものである。

(13) 猫の耳は鋭い。(尾上 1981:104)

(14) 足は痛くない。

例えば(12)や(13)のような例では、耳や足など特定の項目を際立たせ、そこから他の出来事(例えば、鼻は丸いなど)を暗示させる。現在まで「V はしない」の研究は、文の主要部でない「は」は対比の色が強くなる(尾上 1981) (寺村 1991) ものとして、「は」の対比性がどのように働いているのかという方向で研究が重ねられてきた。

(15) 述語に接続する「は」は文構成の基本的な二項の二分結合ではないから、対比の色、特に“譲歩的”な気持ちが強くなる。

(a) 昨日教科書を読みはした。

(b) 一見したところ、美しくはある。(尾上 1981:110)

しかしこの方向性では、否定の強調のようにいまだに説明の余地が残る「V はしない」の用法があると思われる。

本研究では2つの「は」の機能のうち、主題の「は」の個別的な事象を説明の対象として概念化することができるという性質に注目して「V はしない」について考察を行いたい。

## 2.2. モダリティ

### 2.2.1. 認識的モダリティ

この説では「V はしない」がモダリティであると述べるために、内容を定義していきたい。本論文では、モダリティとは話者の主観的な態度(益岡 1987:30)などを表す意味論的なカテゴリーだと考える。詳細は澤田(2006)で述べられた次の定義に従う。

(16) モダリティとは、事柄(すなわち、状況・世界)に関して、たんにそれがある(もしくは真である)と述べるのではなく、どのようにあるのか、あるいは、あるべきなのかということを表したり、その事柄に対する知覚や感情を表したりする意味論的なカテゴリーである。澤田(2006:2)

モダリティは、意味機能によりいくつか分類されており、その一つに「認識的モダリティ」というカテゴリーがある。認識的モダリティは次のように定義される概念であり、話者の命題に対する事実かどうかの判断を示すものである。

(17) その命題が事実であるかどうかに関する話し手の判断を表すもの(Palmer 2001-2:24)<sup>7</sup>

「かもしれない」「違いない」などがこれにあてはまり、次のように用いられる。

(18) 雨が降るかもしれない。

(19) 雨が降るに違いない。

(17)の例では「雨が降る」ということの可能性について、「かもしれない」を用いてあまり可能性が高くない(と話者が判断した)ことを示している。同様に「違いない」では、話者は「雨が降

<sup>7</sup> 澤田 (2006:6)より引用。出典:Palmer, F.R. (2001) *Mood and Modality*. Cambridge University Press, Cambridge.

る」可能性が高いと判断していることがわかる。認識的モダリティにおける命題とは、その真偽の判断が可能な事柄のことを指す。

(20) 命題とは、真または偽である文である(澤田 2006:34)

命題であることで真偽判断が可能だということである。これについて澤田(2006)が実際の例を用いて説明したのが次の例である。

(21)(a)[花子が昨日京都にいた]というのは本当ですか？

(b)\*[花子が昨日京都にいた]というのは{できます/必要です/あります}？

(c)?[この川を泳いでわたる]ことは本当ですか？

(d)[この川を泳いでわたる]ことは{できます/必要です/あります}か？

(a)と異なって(b)は不適格である。それは、「花子が昨日京都にいた」は命題であり、真偽を問うことはできても遂行可能性や必要性存在性を問うことはできないからである。一方、(c)と異なって、(d)は適格である。それは「この川を泳いで渡る」は、真偽を問うことはできないが、遂行可能性や必然性・存在性を問うことはできるからである。なお、(c)が適格になる場合があるとすれば、それは「この川を泳いで渡る」が「地元の子供たちは平気でこの川を泳いで渡るらしいですが、それは本当ですか」というように、事象ではなく、命題として理解される場合であろう。(澤田 2006:40)

このように話者の可能性の判断を示すためには真偽を問える概念であることが重要である。そのため「は」のような事柄を概念化し、判断の対象とする役割が大きな意味を担うと考える。

### 2.2.2. 「ことがない」

それではここからは「V はしない」と意味や用法が重なるモダリティ表現を観察し、それがどのような内容を表すのかを分析していきたい。ここで述べるのは「V はしない」と書き換えが可能である「ことがない」と「はずがない」の2種類である。

まず「ことがない」は「こと」により行為を名詞化し、存在の可能性の否定を示す表現だとされる。藤森(2000)では「ことがある」「ことがない」など「こと」を含む文型表現について用例から考察し、分類や機能の分析をおこなっている。そこでは次のような「現在形+ことがない」を「可能性の皆無」と名付け、次のような意味だと述べている。

(22) 「ることがない」は、可能性の有無について、全くないという場合に用いられる。

(a) 泡がどれほど大小にその在り方を変えようとその本性が水であるように、人の心がどれほど変化しようとも、心の本性である仏は変わることが無いのである。

(藤森 2000:40)

(b) あの子に限って、絶対にごまかししたり、すっばかししたりすることはありませんからね。

(藤森 2000:同)

そしてこの「ことがない」は「はずがない」などと交代が可能なことも述べられている。「ことがない」と「はずがない」には否定の強さという点で共通性が見られる。

(34') あの子に限って、絶対にごまかししたり、すっばかししたりするはずがありませんからね。

(同)

### 2.2.3. 「こと」による行為の概念化

藤森(2000)では「V はしない」の分析で重要となる行為の概念化ということについても、「こと」や「の」を例に出し、論じている。日本語では「こと」や「の」を用いることで、するという行為を一般化する作用があることを述べている。

(23) 日本語は「こと」や「の」を頻繁に使用し、名詞句や名詞述語文にすることによって言語操作を行っている言語であるとし、主にエッセイやニュース文からデータを取り、談話分析を行っている。日語文における名詞化表現は、現象を切り取ってそれに対する主題の態度を伝える手段であり、出来事をいったん概念化・客体化する作用がある。(藤森 2000:34(メイナード 1997:175-202))

(24) 日本語では出来事が「スル」的であっても、それを包み込んで「アル」的な存在にしようというわけである。(同)

行為が概念化されると判断の対象になるという点について、益岡(2007)ではより詳しく述べられている。行為や文を概念化するとは、現実世界から切り離された一般的な概念として表すということである。

(25)コトの対象は、命題で表されるような内容や、動詞、形容詞で表される動作、作用、変化状態などを一般的に概念として表したものだ。(益岡 2007:28(寺村 1981:754))

例えば次のような例をもちいて、文と事柄の違いが説明されている。

(26) (a)「担当者が業者から賄賂をもらった。」

(b)「担当者が業者から賄賂をもらったこと」

文である(25)は、「担当者が業者から賄賂をもらった」という事態が真であることを断定している。それに対し、「こと」が付加され命題化された(14)は、「担当者が業者から賄賂をもらった」という事態を概念的に表すにとどまり真偽性は付与されていない。(益岡 2007:30)

これらの例では「こと」が概念化を行う役割を担っているが、先程主題の「は」で観察されたように、「は」も接続することで対象を一般的・概念的に扱うことがある。このように概念化により、判断の対象に変化させるという点が「は」と「こと」では共通すると考える。

#### 2.2.4. 「はずがない」、「既存命題否認の条件」(澤田 2006)

それでは「はずがない」というモダリティについても、基本的な意味と用法を観察していきたい。「はずがない」は認識的モダリティの一つで、論理的推論に基づく確信の強い否定である。先程「ことがない」と交代が可能だったように、命題に対する強い否認を表す。

(27)雨が降るはずがない

澤田(2006)において「はずがない」は「モダリティ否定」という形式の一つだとされている。<sup>8</sup>モダリティ否定とは「命題内容に対する否定的な認識態度を表すもの」(澤田 2006:276)であり、「命題否定」という「否定的な命題内容について肯定的な認識態度を示すもの」(澤田 2006:276)と対立的に論じられている。それぞれ「はずがない」と「違う」が例としてあげられている。

(28)彼らが本当のことを言っているはずがない。(澤田 2006:277)

(29)彼女は今日学校に来ていないに違いない。(澤田 2006:276)

(26)の命題は「彼らが本当のことを言っている」であり、それに対し「はずがない」と否定的認識を述べている。(27)の場合は「彼女は今日学校に来ていない」という命題であり、それに「違いない」と肯定的認識を述べている。そして「はずがない」のようなモダリティ否定には「既存命題否認の条件」(澤田:2006)という性質があるとされる。

(30)話し手はモダリティ否定の認識的助動詞を用いる際には、証拠(q)に基づいて、既存命題(p)を否認したり、(p)とは思えないと主張したりしている(澤田 2006:287)

モダリティ否定では、証拠に基づき既存命題を否認しているとされる。「はずがない」を用いると次のように解釈できる。

(31)A「ジョンは今日の授業に来なかった。もしかしたら病気なのかもしれない。」

B「病気のはずがない。今朝、バグパイプを演奏しているのを聞いた。」

(澤田 2006:288) <sup>9</sup>

ここでは A 述べた推論(p)「彼が病気かもしれない」に対し、「病気のはずがない」と否定的な認識を示している。証拠(q)は「バグパイプを演奏していた」ことである。澤田(2006)で述べられているのは「はずがない」と「わけがない」であるが、実際の用例を観察すると、このモダリティ否定としてのこの条件は「V はしない」にも当てはめることができる。「V はしない」については3節でふれていくが、モダリティである「はずがない」「ことがない」には様々な共通性が見られることが確認できた。

<sup>8</sup>「モダリティ否定」の否認の強さは可能性を否定することによるものだと澤田(2006:299)で述べられている。可能性の皆無を表す「ことがない」と「はずがない」が置き換えできることからも、両者に事態の可能性の否認という共通点があること推測できる。

<sup>9</sup> 原文 “A: John didn’t come to class today; maybe he is ill.” “B: He can’t be ill; I heard him play the bagpipes this morning.”

### 2.3. 先行研究「やしない」「せん」「すらせん」

それでは最後に、単一形態素となった形や方言形の「やしない」「せん」「すらせん」が、どのような表現かについて確認していきたい。まず「やしない」については、竹内(2014)で確信的全否定を表す用法だと示されている。「やしない」は「Vはしない」が文法化した形式であり、単一の形態素に変化したものであるとされている。

(32) 食べやしない。竹内(2014:137)

(33) なかなか始まりやしないね。竹内(2014:142)

「ない」に比べ「Vやしない」には様々な使用の条件があり、既存の情報の有無などがその一つである。

(34)(a) 既存の情報と新規の情報が関わっていること

(b) 既存の情報と新規の情報が矛盾した関係にあること (同:140)

(35)(a) (いつものように机の上で本を読み始めて、ほどなく)

あれ、何か\*落ち着きやしない 落ち着かないなあ。

((34a) 既存の情報の有無) (同:141)

(36) A: あ、お腹が鳴ってますね。

B: 朝ごはん 食べやしなかったんです。 / なかったんです。

((34b) 既存の情報との矛盾) (同)

「やしない」において既存の情報の有無や話者の確信が意味に影響していることを示唆する内容である。「やしない」と「Vはしない」の相違などに疑問の残る点<sup>10</sup>はあるが、「Vはしない」とも共通する性質を指摘しており、その共通性が興味深い。竹内(2014)では言及されていないが、既存の情報と新規の情報が矛盾した関係にあることという条件は「Vはしない」にも存在する。そしてそのことは「Vはしない」が既存命題否認の条件など、モダリティに関する性質とも深く関わりがあることとつながっていく。

次に工藤(1992)では宇和島地方の方言形式「すらへん」を「ない」に対応する否定形式「ん」と比較し、次の2つの特徴があることを明らかにした。「すらへん」は補助動詞「する」の否定形「はせん」(読みはせん、聞きはせん)が一語化した形であり、非分析的であるという点で「Vはしない」より発展した形である。

(37) 1, <事態成立(肯定性)>への<他者(2, 3人称者)の確信>に対する<話し手(1人称者)の否認>

2, <事態成立(肯定性)>への<期待の不成立>に対する<話し手の不本意性>

(工藤 1992:132)

「すらへん」には他者が肯定した事態に対する否認を示す場合にしか用いられず、話者の意見に賛同するという場合には使うことができない。

(38)(a) 先生雨降るゆうたけんど 降らへんでなあ。(工藤 1992:132)

(b) 先生雨降ると言ったけれど 降りはしなかったよ。(作例)

(39)(a) \*先生雨降らんゆうたけんどやっぱり 降らへんなあでなあ。(同)

(b) 先生雨降らないと言ったけれどやっぱり 降りはしなかったよ。(作例)

<sup>10</sup> 「Vやしない」は単一形態素化したことで、様々な点で「Vはしない」と使用方法が異なることが述べられている。「やしない」は、「矛盾する関係にある既存の情報と新規の情報のうち、どちらかをとることととらない方の情報を否定することになるが、この二者択一を曖昧にする性質を持つ語類や成分とは相性がわるい(竹内 2014:144)」という性質があり、「かもしれない」「必ずしも」など判断を曖昧にする性質のある語句とは共起できないとしている。例えば次のように「やしないかもしれない」は違和感があるが「Vはしないかもしれない」は自然だと述べる。

1. ? ちゃんと仕事をしやしないかもしれない。

2. ちゃんと仕事をしはしないかもしれない。(竹内 2014:143) (容認性判断も竹内(2014)に従う)

しかし個人的な感覚ではこれらの容認性判断には疑問が残り、「Vはしないかもしれない」の実際の使用状況なども気にかかる。「Vはしない」と「Vやしない」の差異については今後の課題としたい。

他にも種々の制約があり、それぞれが参与者の確信に関わっている。例えば 1, 自分の確信は否定できない、2, 他者の事態成立性に確信度が低い場合は使えない、3, 自者が事態不成立性に確信度が低い場合も使えない、などである。

(40)「私あんたに、絶対降るゆうたけど、降らなんだ/\*降らへなんだい。こらえて。」(1, 自己発言による否認の不可)

(41)A「明日誰か来る？」

B「来んぜ/\*来らへん。」(2, 他者の事態成立への確信度が低い)

(42)A「明日お客さん来るんで。」

B「いやー、ひょっとしたら来んぜ/\*来らへん。」(3, 自身の事態不成立への確信度が低い)  
「V はしない」と関連する形式は、否定「ん」(ない)と対立し、概念化者の確信に左右されるという性質があることがうかがえる。

最後に丹羽(2002)でも「ん」との比較し、「V はしない」に対応する愛知県方言「せん」が「前後の状況から実現すると予想される内容を、話し手が自らの立場から期待や評価などを込めて否定するという主観的な表現である。」ことが明らかにされている。「せん」と「ん」の比較は次のようにまとめられている。

(43)③タカラクジワ アタラン (宝くじは当たらない)

④タカラクジワ アタレセン (宝くじは当たりはしない)

③は「当たらない」ということを客観的に叙述している。アタランは 100%当たらないということである。(中略) ④のアタレセンは、予想(期待)されることを当事者としての立場で否定している。当たる可能性は皆無ではないが、自分の主観的な判断では自分達に当たることは多分ないだろうという、万が一の期待に対する自嘲や慰めの表現ということになる。このようにセンは、前後の状況から実現する(宝くじの場合は確率が低い)と予想される内容を、話し手が自らの立場から期待や評価などを込めて否定するという主観的な表現である。

話し手の期待や評価を表すという点は、「せん」がモダリティ表現であることを示していると思われる。最終的には形態的にも「せん」は、命題の外部にある否定として、モダリティとの同様の形式であることを指摘した。

(44)アメガ フラン [[雨が+降る+ン] ]

アメガ フレセン [[雨が+降る ] セン]

ン [話し手[主語+動詞・否定] 叙述 ]

セン [話し手[主語+動詞 ] 判断否定] 丹羽(2002:18)

丹羽(2002)は「せん」について、話者の主観的態度が関わることを述べ、方言の訳語として「V はしない」を用い、「V はしない」がモダリティ表現であることを強く示唆する内容となっている。しかし「せん」やその現代共通語形である「V はしない」がどのようなメカニズムで、話者の認識を表すのかについてはまだ触れられていない。

以上の先行研究をふまえて、「V はしない」が行為の概念化の機能を持ち「事態不成立の可能性の高さ」を示すモダリティ形式であることを概観していきたい。

### 3. 「否定の強調」を表す「V はしない」の用例の分析

それでは「V はしない」にモダリティの用法があることを示すために、1, 「V はしない」「はずがない」「ことがない」の共通性 2, 既存の情報と関わる「V はしない」の確認 3, 既存命題否認の条件の適応、の順で分析していきたい。

#### 3.1. 「V はしない」「はずがない」「ことがない」の共通性

最初に「V はしない」が他のモダリティ用法である「ことがない」「はずがない」と交代が可能であることを確認していきたい。まず「V はしない」は先行研究であげた可能性の皆無の例と同様に使用することができる。

(22)(a)泡がどれほど大小にその在り方を変えようとその本性が水であるように、人の心がどれほど変化しようとも、心の本性である仏は変わることが無い/はずがないのである。(藤森 2000:40)

(22)(a')人の心がどれほど変化しようとも、心の本性である仏は変わりはしないのである。

(22)(b)あの子に限って、絶対にごまかしたり、すっぽかしたりすることはありません/はずが  
ありませんからね。(同)

(22)(b')あの子に限って、絶対にごまかしたり、すっぽかしたりしはしませんからね。

1節で述べた否定の強調の「Vはしない」の例を「はずがない」「ことがない」に置き換えることも可能である。

(1)局には通話回数の記録が残るだけで、話の内容なんかわかりはしない。

(1')局には通話回数の記録が残るだけで、話の内容なんかわかることはない/わかるはずがない。

(3) そんなことを承知するはずないだろう

それに禰豆子は物じゃない!! 自分の思いも意志もあるんだ

お前の妹になんてなりはしない

(3')お前の妹になんてなることはないなるはずがない

このことから「Vはしない」も「はずがない」や「ことがない」のように、可能性がないということを含み否定を行う用法を持つことがうかがえる。

### 3.2.既存の情報と関わる「Vはしない」の確認

次に確信的否定を表す「やしない」で触れた「Vはしない」は既存の情報と関わるという点を確認していく。

(34)(a)既存の情報と新規の情報に関わっていること

これに関連する例として、「Vはしない」は次のような場合には使用が不自然である。

(45) (a)(ポケットに財布がないことに気づいて)あっ、無い!

\* (b)(ポケットに財布がないことに気づいて)あっ、ありはしない!

事実を新たに発見するなど、事前の情報が全くない状況では「Vはしない」は用いることができない。「やしない」の既存の情報が容認度を左右する例でも、「Vはしない」が用いにくいことがわかる。

(35')(a) (いつものように机の上で本を読み始めて、ほどなく)

あれ、何か\*落ち着きはしないなあ。

まず否認の対象となる事前の情報が「Vはしない」には必要であることが感じられる。

### 3.3.既存命題否認の条件の適応

最後に同じく既存の証拠や否定すべき命題と関わる、既存命題否認の条件の適応について実際の用例から確認していきたい。1節で否定の強調として挙げた例を文脈状況と共に考察していく。

(3)そんなことを承知するはずないだろう

それに禰豆子は物じゃない!! 自分の思いも意志もあるんだ

お前の妹になんてなりはしない

(3)の場面は、話者は敵である鬼と戦い苦戦を強いられている場面で、妹・禰豆子を渡せば命は助けてやると言われた場面である。この場面では、鬼の「君の妹には僕の妹になってもらおう」という台詞に対し「そんなこと承知するはずないだろう」と返答している。ここでの命題は「(妹が敵の)妹になる」である。まずこの文脈では鬼による「君の妹には僕の妹になってもらおう(p)」という主張が存在する。しかし妹を譲渡するというのは常識的ではない。話者のセリフでは「禰豆子は物じゃない(q)」が証拠として挙げられている。

それでは次の(4)の用例も同様にみていきたい。

(4)わちきは… 命を乞いはせぬ (2019年) (「ONE PIECE」第93巻933話)

(4)は話者の花魁が、客に自分の禿が殺されそうになったのをかばい、敵から殺意を向けられている場面である。敵は「心より命を乞えば……!!罪を軽くしよう……!!!」と脅す。既存命題として「命を乞う」(p)があげられる。(p)の根拠(q)は、花魁は客に殺されるのを目的としていることだと言える。読者や登場人物達には物語が進んでから明らかになるが、彼女は殺されたふりをして、現在の身分を棄てることで達成したい別の目標を持っている。そのため「命を乞いはせぬ」という台詞には既存の命題とその否認が含まれていることが観察できる。



そして「V はしない」のモダリティの意味である「事態不成立の可能性の高さ」についてもここで触れておきたい。まず「事態不成立の高さ」とは「は」がVという事態を概念化することで生まれている。Vを概念化することで、その性質が一般的にあてはまるものと述べることを可能にしている。(3)を例にあげると、「妹になる」は行為ではなく、「妹になること」という真偽判断を施し、性質を述べられる概念だということである。言い換えると「私の妹があなたの妹になるということですが、それは本当ですか？」という命題として解釈される。この命題に対する答えは「V はしない」の形式が表すように否である。そのため「妹になるということについていえば、それは否であるものだ」というように、時間や状況に左右されない一般法則だと示すことができる。「妹になること」の否定が今の眼前の現状に起因するものではなく、どのような時間、状況、場合においても成立しないというように不成立の普遍性を示すことになる。このように「V はしない」は現状この場という現実世界から切り離すことで、否定を強めているのである。

#### 4.まとめ

このように「V はしない」について、「は」が行為の概念化の機能を持ち、事態不成立の可能性の高さを示す形式であることを見た。「V はしない」は今回の用例のように現在でも用いられ、その使用状況や共起表現には一定の偏りがある。そして「V はしないか」や「V はしなかった」などの活用形における意味の違いにも分析の余地が残る。今回は、現在形の例をみたが、過去形の場合は他のモダリティ形式とは意味や用法が異なってくる。今後は一つの形式に限らず「V はしない」の全体を概観していきたいと考える。

そして文型対比が強い例も「V はしない」の用法の一つである。これらにおいても命題を広くとらえることで、既存命題の一部を否認するという形のモダリティ用法と考えることはできないかとして検討していきたい。

(46)もちろん捨てはしないが、他の国に対する優位は漸次消失すべき運命にある。(1980年)(OB1X\_00261)

(47)触っても困りはしないのですが、驚かれて指に巻きつかれても困るので、結局はハウキとチリトリ使って花壇に入れてあげました。(2008年)(OY05\_01837)

#### 参考文献

- 青木玲子.(1992).『「は」の構文論的研究』.大修館書店.
- 尾上圭介.(1981).「「は」の係助詞性と表現的機能」.『国語と国文学』58.5
- 北原保雄.(1984).『日本語文法の焦点』.教育出版.
- 工藤真由美.(1992).「宇和島方言の2つの否定形式」.『国文学解釈と鑑賞』57-7.
- 澤田治美.(2006).『モダリティ』.開拓社.
- 竹内史郎.(2014).「「V ヤシナイ」について：現代共通語における取り立て否定形式の文法化」.『成城國文學論集』36.
- 寺村秀夫.(1981).「「モノ」と「コト」」.『馬淵和夫博士退官記念国語学論集』大修館書房.
- 寺村秀夫.(1991).『日本語のシンタクスと意味』3.くろしお出版.
- 丹羽一彌.(2002).「否定形式ンとセンについて」.『人文科学論集 文化コミュニケーション学科編』36
- 野田晴美.(1995).「「～ハ～ナイ」「～シハシナイ」「～ノデハナイ」「～ワケデハナイ」ーハとナイを含む否定の形ー」.『日本語類義表現の文法(上)』くろしお出版.
- 藤森弘子.(2000).「談話における「コトガアル」の意味と用法」.東京外国語大学留学生日本語教育センター論集 26(26)
- 益岡隆志.(1987).「モダリティの構造と意味ー価値判断のモダリティをめぐってー」.『日本語学』明治書院.
- 益岡隆志.(2007).『日本語モダリティ研究』.くろしお出版.
- メイナード・泉子・K.(1997).『談話分析の可能性：理論・方法・日本語の表現性』.くろしお出版.